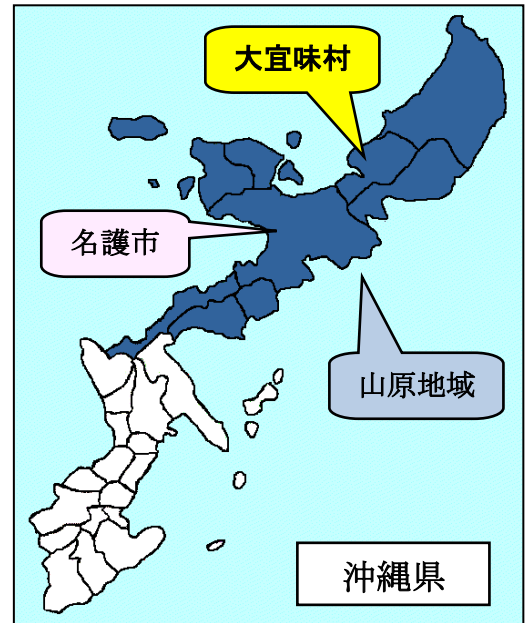


沖縄で初めての「そば道段位認定会」開催!

沖縄では「ソーキソバ」が馴染深く、「日本そば」はほとんど食べられていません。沖縄本島北部の山原(やんばる)地域にある大宜味(おおぎみ)村では、台風等で大雨が降った際に畑土が流失して深刻な海洋汚染が発生していました。畑の表土を根で抑えて、海洋への流出を防止する目的でソバが栽培されていました。九州沖縄研究センターは本州のソバ在来種を交配して、沖縄の土地や気候に適合した新品種の「さちいずみ」を開発しました。これを約10haの畑で栽培して、年間約5トンの玄ソバが収穫できるまでになりました。関係者は日本そばを食べる食習慣のない沖縄で、「日本一早い新そばまつり」を開催することで、地元の人たちに「日本そば」を食べてもらうことによって玄ソバの消費を進めることにしました(全麺協会報6号「地域振興のページ」にて、平尾台手打ちそば倶楽部 姉川徳子さんが記事掲載)。



平成30年に全麺協は中谷理事長ほか2名が現地の視察を行って、「日本そば」普及の可能性が高いこと、全麺協の目的である「そばによる地域振興」を進めると共に、「段位認定者空白地域の解消」にもつながるとの確信を得ました。視察の結果を踏まえて、今年度に「全麺協本部の直轄事業」として西日本支部と共同して「沖縄県のそば普及指導活動」を開始させました。その具体的な取り組みとして、昨年7月から12月までの6ヶ月間、毎月1回本部から2名と、西日本支部の「北九州市平尾台そば打ち倶楽部」で選抜された2名の指導者が現地を交代で訪れて、手打ちそばの技術指導を行なったのです。

この取り組みの結果、大宜味村に在住する宮城久美子さんを中心に、20名ほどの沖縄県民が熱心に手打ちそばの技術習得に取り組みました。その後、宮城さんらは「大宜味手打ちそば倶楽部」を結成して全麺協正会員として入会するとともに、全麺協本部に「段位認定会」を開催して欲しいとの強い要望を出しました。これに応えて、下記の通り沖縄県で最初の全麺協「そば道段位認定会」が開催され、13名の初段位認定者が誕生しました!

(報告者 : 専務理事 加藤 憲)

1. 期 日 : 令和2年2月23日(日)
2. 会 場 : 大宜味村農林活性化センター
3. 主 催 : 一般社団法人 全麺協本部
4. 審査員: 特任審査員(審査員長)・加藤 憲
特任審査員・藤間英雄、全国審査員・大野和則
地方審査員・柿川徳子、北崎サエ子
5. 特別スタッフ : 全麺協 段位認定部長 横田節子
平尾台そば打ち倶楽部 稲積 一
さいたま蕎麦打ち倶楽部 小林 浩
6. 受験者数 : 13 名
7. 段位認定者数(合格者) : 13 名

「そば道段位認定会」開催までの経緯と成果

そば打ちを広めることによって、手打ちそばの美味しさとそば打ちの楽しさを知ってもらって地域振興につなげたいと、本部直轄事業によって大宜味村段位認定会を開催するプロジェクトが始まりました。初歩からのそば打ち指導のため、指導員は受験予定者別の「指導カルテ」を作って、本部と西日本支部の指導員は、このカルテによって進捗状況を共有し合いながら、的確なそば打ち指導を行いました。

忙しい農作業時間をやりくりしての参加や、遠方の島から連絡船を利用しての参加など、受験者は厳しい環境の中で名護市内の練習場に参集していました。このことを指導者たちが知って、絶対に初段位に合格させなければならないと、指導にも熱がこもりました。

認定会当日、受験者は会場スタッフを兼ねての参加のため、2組に分かれて段位認定会に臨みました。緊張感に包まれながら真剣に審査に臨み、全員が時間内に終えて出来栄も見事なそばを打ち上げていました。合格者一人一人に認定書を授与しましたが、嗚咽して涙ながら認定証を受けとる方がいて、私たちも目頭が熱くなりました。また、大宜味村にある沖縄県立辺士名高校では「そばに関する授業」が行われ、平尾台そば打ち倶楽部が同校でそば打ち教室を開催しています。合格者の中に同校の教諭もいて、令和2年度「全国高校生そば打ち選手権大会」の出場に意欲を示していました。

沖縄県に初めて誕生した13名の段位認定者は、沖縄県内におけるそば道の先駆者としての活躍が大いに期待され、全麺協本部の直轄事業で実施したそば道認定会は、沖縄県におけるそば道発展の出発点になったと確信が持てました。



段位認定会



成績発表



記念写真

第1回全麺協 段位認定沖縄大会

2020.2.23

主催: 一般社団法人全麺協 共催: 大宜味村そば打ち倶楽部